

# 心はずむ 雨の日に。

だんだんと近づいてくる梅雨の季節。

雨の日を楽しく過ごすコツは、  
「お気に入りの傘」にありました。

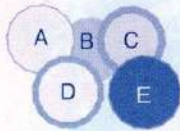
「傘は雨をしのぐ実用的な道具というよりも、気持ち豊かにしてくれる装飾品のひとつ。時計や万年筆のように必需品ではないけれど、それがあることでスタイルが完成するような特別な存在です」と話す、服飾史家の中野香織さん。

日本と同様、雨が多いイギリスでは独自の傘文化が発展し、傘は「英国紳士の嗜み」といわれるほど、男性にとってのステイタスシンボルとなりました。「17世紀以降、彼らが手に持ったのは、サーベルから乗馬鞭、ステッキ、そして傘へと移り変わっていきます。重要なのは、ステッキのように傘を可能な限り細く美しく巻くことでした。かつて、ロンドンには『アンブレラローラー』とよばれる専門の職人が存在していたほど。傘は、英国紳士にとって必須の『アクセサリー』になつていったのです」。

一方、英国淑女のスタイルアイコンといえば、エリザベス2世。愛用されていたのが、老舗アンブレラブランド「フルトン」の高級ビニール傘「バードケージ」です。女王は、傘のハンドルや縁のカラーをコートや帽子の色合いと統一した、鮮やかなワントーンコーディネートで世界中の人々を魅了しました。透明な傘は、雨の日にもかわららず歓迎してくれる人たちに、お顔がしっかり見えるという利点からも選ばれていたとか。

「自分自身を素敵に見せるおしゃれも大切ですが、お手本にしたのは、それ以上にまわりの人々を楽しませるサービス精神。うつうつとする雨の日にも、美しい傘で街ゆく





職人の手しごとが、随所に込められた傘。一般的な傘の倍にあたる16本骨で、開いたときのシルエットの美しさも秀逸です。

〔前原光榮商店〕

A・E ボーダーWカーボン  
ライトブルー、ネイビー

(親骨の長さ/55cm、使用時/  
直径約93cm) 各23,100円

取り扱い店/新宿・玉川「婦人洋品」、  
横浜「シーズン雑貨」

B シャンブレイカーボン YB

(親骨の長さ/55cm、使用時/  
直径約96cm) 23,100円

取り扱い店/新宿「婦人洋品」、  
横浜「シーズン雑貨」

C・D フィオーレ ミントグリーン、ローズ

(親骨の長さ/55cm、使用時/  
直径約96cm) 各22,000円

取り扱い店/新宿・玉川「婦人洋品」、  
横浜「シーズン雑貨」

※使用時の直径は個体差があります。

※取り扱い店は変更となる場合がございます。

### 中野 香織 (なかの・かおり)

服飾史家、著作家。ファッション史、イギリス文化、英国王室スタイルなどの分野を中心に執筆、講演などを行う。英国ケンブリッジ大学客員研究員、明治大学特任教授、昭和女子大学客員教授などを歴任。著書に「イノベーター」で読むアパレル全史」ほか多数。「日本経済新聞」をはじめ多媒体で連載中。

人々を笑顔にできたなら……。そんな気持ちで傘をさす人が増えたら、日常の景色が彩り豊かなものになりそうですよね」

また、雨をはじく首や、手元(ハンドル)の手ざわり、光があたったときに変化する生地の色彩など、五感で楽しめる点も魅力のひとつです。特に、職人の手しごとから生まれる一本は、人を惹きつけるほどの美しさ。

「たとえば、生地の内側にだけドラマチックな絵が描かれていたり、鮮やかな色が使われているなど、外側と内側で異なるデザインが楽しめるのも傘ならではの魅力。傘をさせばそこは自分だけの小さな空間。だからこそ、誰かと共有すると不思議とうれしい気持ちになるのかもしれない」

上質な傘をさすと背筋がスッと伸びる感覚がある、と中野さん。所作や仕草まで自然と洗練されるような気がすると話します。「この感覚は、使い捨てのものでは味わえない喜びです。メンテナンスをしながら愛着を持つてていくことは、嗜みのひとつ。お気に入りの傘があるだけで、雨の日の気分も変わりそうです」。